

令和 6 年度 砧南中学校自己評価（学校評価）報告及び改善方策

学校教育目標の達成に向け、令和 6 年度は以下の 3 点を指導の重点目標として位置づけました。

- (1) キャリア・未来デザイン教育の実現による「知識・技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力等」の育成
- (2) 「自他を認め、感性と創造性を育む教育」の充実
- (3) 「心と身体を大切にし、たくましく未来を切り拓く素地を養う教育」の充実

重点目標を達成するための具体的な取組として学校経営方針に位置付けた内容について、学校関係者評価項目に基づき、自己評価及び改善の方策について、以下のように報告します。

【重点目標（1）】① キャリア・未来デザイン教育の実現による「知識・技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力等」の育成

① 重点目標を達成するための取組

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うとともに、指導と評価の一体化を図り、妥当性・信頼性のある学習評価を実施する。
- ・各教科の「見方・考え方」を働かせる場面を重視した授業により、生徒が「教科等を学ぶ意義」や「学びの深まり」「学んだことによる自己の成長」を実感できる取組を行う。
- ・各教科等の学びの中で、自ら課題を発見し、その課題を解決するための「探究のプロセス」を繰り返し、発展させていくことを通して、学習内容や学び方を取得するとともに、共感、協働する学びにより多様な考えを受容し、より深い学びに向かう「世田谷探求的な学び」を推進する。
- ・生徒が社会的・職業的自立に向けて自己の役割や将来の生き方、働き方について具体的に考え、未来を切り拓いていけるよう、「キャリア・未来デザイン」教育を推進する。
- ・ICT の効果的な活用を通して協働的な学び、探求的な学び、個別最適な学びの充実を図る。

② 重点目標（1）に関連する学校関係者評価の結果

- ・生徒の学習指導に関する項目は、全てが 80%以上の肯定的回答となっている。特に「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中でとっている。」「考えたことを話し合ったり、発表したりする機会がある」は 95%以上と、高い。
- ・保護者の学習指導に関する項目は全てにおいて 65%以下と低く、特に、「本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」については 10 ポイント以上下がっている。
- ・先生に関する項目の「先生たちは、生徒にいていねいに（わかりやすく）指導している。」の生徒の肯定的回答の割合は 92.7%で 3 ポイント上がっている。
- ・学習指導に関する生徒の肯定的回答が最も低いのは、提出物やテストなどの評価についてである。

③ 自己評価

- ・話し合い活動などの協働的な学びの場面設定が意識的に行われている。
- ・iPadをはじめとしたICTの活用は定着している。ロイロノートを用いた意見の共有や、授業時に行う簡易的なアンケートの実施、動画の活用やパワーポイントを用いたプレゼンテーションなど、ほとんどの教科で定着している。引き続き、指導のねらいに応じた効果的な教材の精選が課題である。
- ・昨年度に続き、管理職による全教員に対する年2回の授業観察においては、学習指導案の略案に必ず「探究的な学びに向けたICTの活用」を位置付けるよう指示し、全教員がICTを活用した授業の充実を図ったことも、成果につながっていると考えられる。
- ・保護者の学習指導に関する項目は全てにおいて65%以下と低い。学校公開や学年通信等による情報発信による、保護者の本校の教育活動への理解の深まりが課題である。
- ・提出物やテストなどの評価の方法や観点等が、一部の生徒に伝わっていない現状がみられる

④ 改善方策

- ・引き続き知識・技能の習得、思考力、判断力、表現力等の育成、学びに向かう力等の育成を目指し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進し、指導と評価の一体化を図り、適正で信頼される学習評価を実施する。
- ・保護者の学習指導への理解へ向けて、学校公開や学年通信等による情報発信を充実させる。
- ・学習の基盤となる言語能力、情報活用能力、問題解決力や論理的思考力、表現力等を高めるための指導を、教科横断的、系統的な取組として推進する。
- ・学校の学習指導の状況について、家庭・地域へ積極的に情報発信し、家庭学習の定着を図る。
- ・ICT活用のさらなる充実を図るとともに、ガイドラインに基づいた生成AIの活用を進め、その様子を積極的に公開していく。

【重点目標（2）】「自他を認め、感性と創造性を育む教育」の充実

① 重点目標を達成するための取組

- ・全ての生徒が自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、権利と義務、自由と責任についての認識を深め、公共心や自立心をもつことができるよう、人権教育を推進する。
- ・あらゆる他者との違いを受け入れ、認め合いながらコミュニケーションを図り、知的好奇心、新しい知識・経験に対する探求心を持ち、共に成長していく、「多様な価値観に対して共感する態度」を養う。
- ・家庭・地域の具体的な参加場面をつくるなど、協議会の工夫・改善を行い、道徳授業地区公開講座を充実させることで、家庭や地域と連携した道徳教育を推進する。
- ・生徒の社会的・職業的な自立に向け、自己の役割や将来の生き方、働き方について考えていくことができるよう、地域や外部機関と連携した体験的なキャリア教育を推進する。

② 重点目標（2）に関連する学校関係者評価の結果

- ・「学校は、学習以外の道徳教育、人権教育にも力を入れている」について、保護者の肯定的回答の割合は保護者52.4%、地域70.4%であり、昨年度と比較して保護者は5.5ポイント下がり、地域は4.8ポイント上がっている。
- ・学校行事に関する項目「学校行事は楽しい」「学校行事は達成感がある」について、生徒、保護者の

肯定的回答の割合は共に 90%以上となっている。

- ・キャリア教育に関する項目「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある」についての肯定的回答は、生徒 75.2%、保護者 50.0%であり、「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。」についての肯定的回答の割合は、生徒 75.5%、保護者 47.6%であり、生徒と保護者の割合に差がある。保護者の割合は昨年度より 10 ポイント以上下がっている。
- ・「キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している」についての肯定的割合は、生徒 55.9%、保護者 39.8%であり、低い保護者の割合は昨年度より 15.6 ポイント下がっている。

③ 自己評価

- ・考え、議論する道徳の授業を要として、道徳的实践力を身に付ける指導や人権教育については、保護者や地域の願いが高く、引き続き充実させていく必要がある。道徳授業地区公開講座において生徒、家庭、地域が協働で考える場面をつくるなど、継続して広く周知する必要がある。
- ・キャリア教育の充実に向けて、生徒が日々の学びが自らの将来に直結したものとして実感し、体験的な活動や多くの人々と触れ合う中で、自らを見つめ、生き方やあり方について考える機会を充実させる必要がある。
- ・職場体験等本物の体験で得る学びは大きい。引き続き充実させていく必要がある。
- ・キャリア・パスポートの活用について、生徒、保護者の認知度が少しずつ下がっている。より一層意義の周知と有効活用が必要である。

④ 改善方策

- ・学習以外の道徳教育や、人権教育に力を入れ、さらに生徒の心の教育を充実していく。引き続き道徳授業地区公開講座における協議会内容を充実させ、学校、家庭・地域が一堂に会し、子供たちの心の教育に関して語り合う場を設けるなど、工夫し、その様子を積極的に発信していく。
- ・学校行事において、引き続き生徒の自主的・自治的活などの体験的な活動の場面を増やし、生徒が自己実現できる教育活動の充実を図る必要がある。
- ・「自他を認める心」「感性や創造性」が全ての生徒に必要な資質・能力であり、その源は自己肯定感や、他者理解、協調性や忍耐力等の「非認知能力」である。継続した教育活動として実施していく必要がある。
- ・生徒の社会的・職業的な自立に向け、自己の役割や将来の生き方、働き方について考えていくことができるよう、地域や外部機関と連携した体験的なキャリア教育を推進する。
- ・キャリア・パスポートを有効活用し、生徒が将来への夢や希望をもち、その実現に向けて、主体的に未来を切り拓こうとするための指導を充実させるとともに、キャリア・パスポートを家庭に持ち帰り、保護者と内容を共有するなどして、キャリア教育について家庭の理解を得る。
- ・地域行事への参加や社会体験活動、ボランティア活動の一層の活性化を図る取組を通して、社会性を育み、社会の構成員としての自覚もつことができるようにする。

【重点目標（3）】「心と身体を大切にし、たくましく未来を切り拓く素地を養う教育」の充実

① 重点目標を達成するための取組

- ・いじめや様々な問題行動、不登校等の未然防止、早期対応、解決に向けた校内体制を整備し、全ての生徒にとって学校が安全・安心で、魅力ある場となるよう「居場所づくり」「絆づくり」の取組を充実させ、組織的に対応する。
- ・個性や能力、発達特性、生徒の状況が個別多様化する中において、一人ひとりに寄り添い、ICT機器の活用や関係諸機関等との連携による支援体制を確立し、ニーズに応じた支援を行う。
- ・不登校生徒の状況に応じ、ICT機器の活用や関係諸機関等との連携による支援体制を確立し、多様な教育の機会の保障を行う。
- ・体力向上や健やかな身体づくりとともに、自らの心身の健康と食に対する正しい知識を身につける取組を推進する。

② 重点目標（3）に関連する学校関係者評価の結果

- ・生活指導に関する項目「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。」「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している。」「私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる。」について、生徒の肯定的回答の割合は、どの項目も88%を超えており、生徒が概ね学校での過ごし方やルールについて理解し、行動できていると考えられる。
- ・地域の通学時の交通ルールに関する項目は、肯定的回答の割合が、77.3%であり、昨年度よりも4.0ポイント下がっている。
- ・独自質問の「モラルを守って携帯電話やタブレットなどのICTを使用している。」についての肯定的回答の割合は、生徒92.7%、保護者71.4%と、高い。
- ・「先生たちは、生徒が相談しやすい」の肯定的回答の割合は、生徒75.4%、保護者63.1%となっており、高いとは言えない。
- ・「体力の向上や健康な生活」の項目について、生徒の肯定的な回答の割合は73.8%、保護者66.5%であった。
- ・独自質問の「困ったときに相談できる友人、大人」の項目について、生徒の肯定的回答の割合は、友人94.5%、大人89.1%と、どちらも高い。
- ・「マスクを外して生活したいと思う」の項目について、生徒の肯定的回答の割合は72.8%、保護者66.9%であり、昨年度よりも生徒は15.1ポイント、保護者は6.1ポイント上がっている。
- ・新設した生徒の「私は学校からの配布物は必ず届けている」の肯定的回答の割合は74.6%であった。

③ 自己評価

- ・「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」などの、生活指導に関する項目に結果から、多くの生徒の規範意識が醸成されていると考えられる。
- ・「モラルを守って携帯電話やタブレットなどのICTを使用している。」についての肯定的回答の割合は、生徒、保護者共に高いが、今年度も生活指導面では、ICTやSNSの使用に基づくトラブルが多かった。ICTリテラシー教育の充実は今後も必須であり、ますます重要である。

- ・健康な生活習慣について、概ね肯定的評価が高いものの、日常の生徒の様子では体調や心身のバランスを崩す生徒がみられる。引き続き家庭と連携し生徒の健全な成長に資する必要がある。
- ・生徒が困ったときに相談できる友人・大人の項目についての肯定的評価は高い。
- ・マスクを外して生活したいと思う生徒の割合が増加し、感染症の流行はあるものの、マスクをしない生活が戻ってきた傾向がうかがえる。

④ 改善方策

- ・引き続き、生徒に学校での過ごし方やルールについて、考えて行動するための指導の徹底を図るとともに、通学時の交通ルールの順守について、指導していく。
- ・ICTリテラシー教育を充実させるとともに、家庭と連携して基本的な生活習慣や家庭学習の定着、デジタルシチズンシップの育成を図る。また、生徒がいつでも相談できる人間関係づくりや、安心して相談できる環境づくりに努める。学校教育全体を通じて、情報活用能力の育成とリテラシーに関する教育に取り組んでいく必要がある。
- ・保健指導をもとに、健康な生活習慣についての指導を充実させるとともに、家庭への情報提供や協力を促していく。
- ・いじめや様々な問題行動、不登校等の未然防止、早期対応、解決に向けた校内体制を整備し、全ての生徒にとって学校が安全・安心で、魅力ある場となるよう「居場所づくり」「絆づくり」の取組を充実させる。
- ・個性や能力、発達特性、生徒の状況が個別多様化する中において、一人ひとりに寄り添い、ICT機器の活用や関係諸機関等との連携による支援体制を確立し、ニーズに応じた支援を行う。
- ・不登校生徒の状況に応じ、ICT機器の活用や関係諸機関等との連携による支援体制を確立し、多様な教育の機会の保障を行う。
- ・体力向上や健やかな身体づくりとともに、自らの心身の健康と食に対する正しい知識を身につける取組を推進する。